

クチベニガイ *Corbula erythrodon* Lamarck

【選定理由】

本種は湾口部から外洋に面した海岸の潮間帯から潮下帯の砂底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、個体数とも激減している。かつては知多半島伊勢湾側、渥美半島外海側で新鮮な死殻が比較的多く打ち上げられていたが、近年はほとんど採集することができない。1999年からの3回(30地点以上)、知多半島伊勢湾側から三河湾湾口部の海域をドレッジにより調査した。その結果、知多半島伊勢湾側の水深5-10 mの砂底より多くの生貝が採集されたが、その範囲は狭く、その他の海域では死殻さえ採集されなかった(木村, 2000; 木村, 未発表資料)。その後2015年に同海域で同様な生息状況が確認され、絶滅の可能性が高い種であると評価された。



南知多町内海沖(ドレッジ水深2-5 m), 2015年9月22日,
木村昭一採集

【形態】

殻長約25 mmで、殻質は極めて厚く、右殻はよく膨らむ。殻表には低い輪肋があり、右殻は左殻より大きい。殻の表面は白色で、内面は淡黄色で周縁は和名の由来となっているように濃い赤紫色。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少し、生貝が多産する範囲は非常に狭い。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。国内では房総半島から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は悪化しているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。生貝は透水性の高い潮下帯(水深約10 mまで)の砂底に限定され、生息範囲が非常に狭い。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

本種は外洋水の影響が強く有機質が少ない透水性の高い潮下帯の砂底に生息し、有機質が堆積し泥質化すると個体数が著しく減少するので、透水性の高い砂底の指標種と言えるかも知れない。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

(木村昭一)